

令和 8 年度入学試験

沖縄県立芸術大学
音楽学部

問題・出題の意図

〈3 年次編入〉

目 次

3年次編入	問題	出題の意図
小論文（音楽文化専攻）	1	2

令和八年度 沖縄県立芸術大学音楽学部 編入学試験

科目名：小論文 専攻名：コース：音楽文化専攻 沖縄文化コース・音楽学コース

伝統芸能 現代語で魅力再発見 「わかりやすく」広がる試み

——名作、笑い響く場面も 本質踏まえ自由に楽しむ

新聞記事	文字数	1,182	文字
------	-----	-------	----

(井上秀樹)

出典：『朝日新聞』二〇二五年一月二十九日朝刊 二五面

問 右記の新聞記事を読んで、現代社会において、伝統的・古典的な上演芸術(音楽・芸能を含む)

を普及させる取り組みの課題や可能性について、具体的な事例を挙げて二二〇〇字程度

で論じなさい。

【用語解説】

人形浄瑠璃文楽(にんぎょうじょうりぶんらく)

人形浄瑠璃は語り物による人形劇の一種、文楽は人形浄瑠璃の今日における一般的な名称。文楽

は義太夫節によって語られ、その語り手を太夫(たゆう)と呼ぶ。

令和8年度 沖縄県立芸術大学音楽学部 編入学試験
小論文（音楽文化専攻 沖縄文化コース・音楽学コース）

1. 出題の意図

課題文は、「伝統芸能、現代語で魅力再発見 「わかりやすく」 広がる試み 一名作、笑い響く場面も 本質踏まえ自由に楽しむ」（2025年1月29日『朝日新聞』朝刊25面）を取り上げた。人形浄瑠璃文楽や歌舞伎、日本舞踊などを、現代語訳で伝えようとする試みについての記事である。

出題は、文章を読解させ、受験者の考えを述べさせることにより、受験者が課題文の内容をどのように理解し、どのように考えたか、またその考えをどのように他者に対して的確に伝えることができるかを問うものである。

2. 評価の観点

- ・ 課題文に対する理解
- ・ 音楽や舞踊に対する知識・理解、関心・問題意識
- ・ 論理性、思考力
- ・ 独創性、発想力
- ・ 文章構成力・表現力（誤字脱字や文章の技術等も含む）